

# 感染症に気をつけよう！



平成26年  
【10月号】

## 横浜市内の感染症流行状況

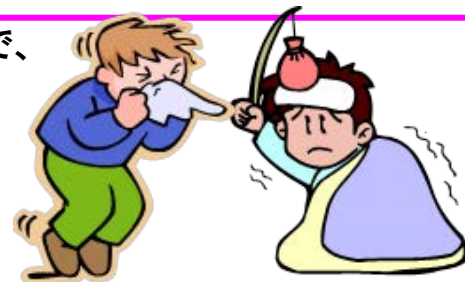
感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
デング熱	★ 散发	➡ 増加	市内でも国内感染例が報告されていますが、蚊の調査ではウイルスは検出されていません。蚊に注意して防ぎましょう。	
腸管出血性 大腸菌感染症	🌟 流行	➡ 横ばい	9月も報告が多い状況が続いています。焼肉の加熱・食品の洗浄・手洗い等を十分に行い、予防しましょう。	【9月号】

## 今、気をつけたい感染症 RSウイルス感染症

■ 昔から冬場の風邪のひとつとして知られている感染症で、RS(アールエス)ウイルスが原因です。2～8日の潜伏期の後、発熱・鼻水から始まり、咳が続きますが、通常は7～12日で治ってきます。

■ 年長の子供や大人も繰り返しかかりますが、重症になることは少ないです。

■ 一方、乳幼児や高齢者、免疫の弱っている人では重症化する例が多くみられます。入院が必要になる場合もあるので、注意しましょう。



■ 感染の仕方は、他の多くの風邪と同様です。患者の咳で生じた飛沫(しぶき)を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物で汚れた指や物を介して、ウイルスが目・のど・鼻の粘膜に付着することでうつります。

■ 家族内で感染が広がりやすく、高齢者施設での集団発生も問題になります。

■ 予防には手洗いが一番大切です。市内でも報告が増えています。自分が感染しないためにも、他の人を感染させないためにも、いつも正しい手洗いをしっかり行いましょう。

